

● 今月の表紙 ●



家と同じ時間を過ごしてほしい
そして笑顔になってほしい

「お待たせしました、ラーメンです！」

チャルメラの音とともに、元気な声が聞こえてくる。

立派な岡持ちがテーブルに置かれ、蓋を開けると赤いラーメンどんぶりが顔を見せた。

醤油ラーメンの良い香りが辺りを包み込み、思わず顔もほころぶ。

そう、これはまちのラーメン屋が出前を運んでくる昔懐かしい光景……ではなく、

特別養護老人ホーム「太陽の家横濱羽沢」で行われたイベントの様子だ。

同施設のイベントは、施設全体だけでなくユニットごとなどさまざまな種類を企画。

細部まで手を抜かずに準備し、入居者が「参加したい」と思うものを選んでもらっている。

日々のケアも同じ。一人ひとりの生活リズムを把握して、それに合わせたケアプランを立てる。

それは、自宅と同じように過ごしてほしいから。

そして笑顔にしたいから。

真の「個別ケア」を徹底しているのだ。

入居者には「毎日が楽しい」と感じてほしい。

そして最期には「ここで過ごせて良かった」と思ってもらいたい。

そんな情熱を、職員は抱き続けている。